

【補足資料】『ニコトコ』における NII の技術について**街なかでの位置情報に基づくサービス(LBS)向けの情報推薦技術****～ 新しいモバイルサービス『ニコトコ』に適用開始 ～**

国立情報学研究所(所長:坂内 正夫)の相原 健郎 准教授のグループは、街なかでの行動支援のためのコンテンツ精選(情報推薦)技術を開発しました。本技術は、2011年11月30日から開始される「モバイルサービス『ニコトコ』」に適用されます。

街なかでの行動を支援する位置情報に基づくサービス(Location-Based Service、LBS)が増加しつつあり注目されていますが、その多くでは、「自分のいる場所から近いもの」を順次提示する手法が基本的にとられてきました。しかしながら、特に繁華街など多くのコンテンツが埋め込まれたエリアでは、自分には関係のない情報が溢れてしまい、そこから必要な情報を探し出すのが困難でした。街なかで携帯電話などを歩きながら使っているという状況では、明示的な操作をなるべくしなくても、ユーザに合った情報が提示されることが望ましく、また、そのような使い勝手が実現されない限り、LBSの有用性も限定的になってしまいます。

本技術では、ユーザの位置に加え、そのユーザ自身の特徴と周辺のコンテンツの特徴を動的に算出し、それらを総合的に判断して、ユーザにその場で最も適していると思われるコンテンツを選び出します。それらの特徴を算出するため、ユーザの街なかでの行動と、コンテンツのアクセス履歴などを「行動ログ」として収集し、解析します。解析結果に基づき、ユーザの特徴や街なかのスポット(e.g. 店舗)の特徴、および、それらの間の関連性(e.g. 類似性、連結性)などが求められます。これらの特徴と、相原研究室で提案した「行動のコストに基づく情報推薦モデル」(*)に基づき、総合的にコンテンツを選び出します。

これまでのLBSでは、ユーザの嗜好に「類似」し、かつ、今いる場所に「近い」ものを提示する手法が多く採られてきました。本技術により、「次に行くなら」や「ちょっと行ってみようかという気になる」という観点からのコンテンツが選択され提示されるようになり、街なかでの新たな気づきや発見が促され、中心市街地の活性化などへの貢献が期待されます。

今後、本技術を適用して構築した「ログ解析プラットフォーム」を「ニコトコ」サービス等に用いていくことで、有用性や有効性の検証を進めていく予定です。

【参考】

(*) 行動経済学などの知見を考慮した情報推薦のモデル。訪れることによって受けられる利得と、そこまでの移動にかかるコスト(距離等)を考慮し、利得は比較的小さいがユーザが入手しやすく、また、直接見えない程度のところであり意外性のあるコンテンツを重視する。